

第1課題 教育課程に関する課題

「西都市中学校再編に向けて～中学校統合に向けての見通し～」

西都支会

1 主題設定の理由

西都市では人口減少が進み、特に児童生徒の減少が著しいため、市内5中学校を妻地区の1校に再編し、2026年(令和8年)4月に西都中学校として開校することが決定している。このような状況は、少子高齢化に伴う人口減少社会を迎える中、日本中で起こりうることであると考える。そこで、令和3年度から令和7年度までの中学校再編に向けた各校の閉校及び開校に関わる取組について、進捗状況を考察することで、これから中学校再編を計画している他の地域や学校への一助となれらばと考える。

以上のことから、教頭として主体的に関わっていく閉校に向けての準備内容を整理し、よりよい形で携わり、リーダーシップを発揮し、学校再編の力になると考え本主題を設定した。

2 本稿のねらい

中学校再編に向けて、閉校を迎える中学校の教頭が中心となり、閉校式実施に向けての準備内容や課題を共有し、実践していくことで、保護者や卒業生・地域の方々の思いに応えながら閉校に導くことができるようにしていく。また、新たに開校する西都中学校が地域に根差した中学校となるようにしていくとともに、他地域での中学校再編時における参考資料となるようにしていく。

3 各中学校の実践事項

(1) 閉校準備委員会の設置

① 第1回閉校準備委員会

- ・組織(部会)の確認
- ・式典と祝賀会の期日決定
- ・記念誌の構想検討

② 第2回閉校準備委員会

- ・組織及び部会の確認と準備内容の分担
- ・記念誌及びDVDの作成部数、販売価格の検討

- ・式典および祝賀会招待者の検討

- ・今後のスケジュール検討

(2) 閉校記念事業

① 予算の確保

市より提案された案により、「学校分収造林基金」を活用することになった。

② 記念碑

西都中となる現妻中学校では、記念碑を建立することになった。閉校する他の学校については、建立する場合にどこに設置をするのか、その後の管理をしていくのかを検討した結果、記念碑は建立しないこととなった。

③ 記念誌

記念誌ページレイアウト案作成ののち、原稿依頼と写真選定について苦慮している。原稿依頼については、どの年代までさかのぼって依頼を行えばよいのか、また、掲載する写真についてもどのように収集していくのか、どのような写真をどの程度載せるのかが課題となっている。さらに肖像権の問題もあったが、人物の氏名が特定できない載せ方であれば、問題ないとの見解である。

④ 記念DVD作成

DVDを作成するにあたり、撮影する画像や動画を学校と業者で分担していくことから始めた。業者へ令和7年1月から12月にかけての主な行事の撮影を依頼し、日常生活の様子については、学校(生徒)での撮影とすることになった。

(3) 記念式典

① 閉校記念式典・祝賀会

令和8年2月13日(金)に5校合同の式典を実施予定である。また、各校閉校式は、日程が重ならないよう調整した。

記念式典・祝賀会では、どの年代までさかのぼって来賓を選定し、案内をしていくのかが課題となっている。案内については、歴代校長・職員、また、歴代PTA会長にどこまで

連絡をすればよいのかの判断に迷っている現状がある。また、歴代校長へは退職校長会等を通じて周知することもできるが、退職した職員へ連絡することが難しい。宮崎県内の現職であれば、C4thを使って案内することができる。

(4) 西都中学校開校準備

現妻中学校については、閉校式及び開校式に向けての準備を同時進行で実施している。開校式に向けての懸案事項を列記していく。

①校則検討委員会

中学校再編へ向けて市内5校の生徒指導主事と生徒会役員が代表となって校則の見直しを行っている。

②拡大生徒指導部会

市内5校の教頭と生徒指導主事が生徒会のあり方、学習や生活の心得など協議し、「西都中スタイル」の確立を目指した話し合いを行っている。

③校内施設の整備

- ・職員室移動のためのレイアウト作成
- ・生徒靴箱、職員靴箱のレイアウト作成
- ・体育館改修、グラウンドの整備、トイレ改修、教室配置変更などに係る打合せ
- ・閉校する学校からの物品の運搬移動計画

④部活動の在り方

現在活動中の各校部活動の維持とともに、今後の部活動開設、携わる指導者の確保について検討中である。また、部活動に関わるスクールバスの在り方・下校時刻の設定などについても調整中である。

⑤令和8年度卒業に向けての準備

開校初年度の卒業アルバム作成については、西都中設立推進委員会PTA部会で検討中である。閉校する中学校へ数年通った生徒のために、写真の選定やレイアウトなどについても配慮していく。

4 中学校再編に係る教頭としての関わり

中学校再編に向けて準備が着実に進んでいる。また、再編に向けて様々な課題に向き合い整理していくことで、教頭として取り組むべき点に気付くことができた。

(1) 閉校式・開校式等式典に関わること

令和8年3月末までに、各校の閉校式の準備が必要となり、その準備を着々と進めている。式典の期日設定や準備・催し、来賓招待・案内状準備・各機関との事前打合せなどの外部との折衝が教頭には求められる。開校式については、市内の教頭会などで関係各所と連携を図り、企画・準備を進めているところである。

(2) PTA組織との連携

閉校及び開校に向けてPTAの協力を得ることになるが、中学校再編前後のPTAの在り方についても整備していく必要がある。また、長い歴史のある「PTA組織」または「PTA活動」であることから、歴代PTA会長などとも連携を図る必要がある。各中学校の様々な学校行事やこれまでの協力体制を整理して、スムーズなPTA再編となるよう工夫していきたい。その際、繋ぎ役としての教頭の在り方が重要であり、西都中学校と地域PTAの協力を密なものとするよう協働していかなければならない。

(3) 地域学校協働活動

地域の方にとって、その地域の学校が閉校することで、地域と学校とのつながりが希薄になることが予想される。そのため、中学校再編に際し、これまで続けてきたことをよりよい形として、引き継ぐことができるよう教頭が中心となって地域との繋がりをまとめ整理していくことが必要となってくる。

また、この1年間は校区内の小学校との連携も非常に意味あるものになってくるため、小中連携をさらに深めていく必要がある。

5 今後の課題

学校再編までの残り約1年間で、閉校に向けた準備や各機関との連携、各会議の計画立案、司会進行など、教頭が中心となって実働を担っていかなければならない。また、再編中学校の開校及び新たな運営に向けて様々な面からの整備・整理も必要となってくる。その際、校長のリーダーシップを支えることができるよう教頭として、多方面にわたり企画・立案・折衝能力を発揮していくことが望まれると考える。